

日本文学研究者

ロバート キャンベル さん

古典文学には学びがいっぱい 蓄えた知識を共有し、学び合う余裕を持つとう

1300年の歴史が積み重なった日本の古典文学には、多くの学びがあるとされます。江戸後期から明治に至る文学の研究で知られる日本文学研究者のロバートキャンベルさんに、古典文学の魅力と、余裕を持つ大切さについて語っていただきました。

ピースフルな日本の古典文学

10代から20代の時には、好き勝手に興味を持ち、いろんな人たちと出会い、仲良くなったと思ったら別れたりして様々な経験を積みました。その中で、日本語を通して少しずつ好奇心の扉が開いたのが日本の文学で、特に明治時代より前の古典文学が、なぜか私の体や心、日常の中に定着していきました。

明治時代よりも前の文学は、侍や公家といった階層の人や、庶民とその子どもたちも互いに読み聞かせをし、あらゆることを共有しながら人間性が形成されていきました。古典文学は、人々が希求する平和、安定、共存といった考えが、真ん中に置かれている文学だと思っています。

例えば、江戸時代の書物の中に「絵手本」が数多く残されています。絵や文字



が書かれているので、それを大人と子どもと一緒に読んだり、教材のように使ったりしていました。そういった江戸時代の絵手本を私は鑑賞しています。それはすごく、ピースフルなものです。もちろん江戸時代でも、人々是对立をしたり喧嘩をしたり、現在と変わらず相互理解できないことはたくさんあったと思いますが、いろんな絵手本を見ていくと、なんとも言えず平和な気持ちになります。

『花の蔭あかの他人はなかりけり』
桜の季節に、小林一茶が詠んだ発句です。桜が一本咲いていけば枝の下では、他人であつても他人のように思えないということ、自然の移ろいの中で人々が出会い感謝をし、例えば持ち寄ったお酒や食べ物に分ち合ったりする光景を詠っています。一期一会という言葉のように、日本人らしいスピリットのようなものが江戸時代の書物の中にはたくさん記録されています。

杭に留まるゴイサギのように

昔の人は、日常の中で集まり、語り合い、季節の移ろいを感じて心を通わせ、ワクワク感や安堵感を共有していました。それは、現代も同じだと思います。何かを口実にして集まり、宴を開き、ちよつとした情報交換をして、気持ちを交わしてきました。そういうことは、人々の生きて

いる手ごたえとなり、共感する力を育てています。

その結果、自然災害などの何か普段と異なることが起こった時に、人々が俊敏にコミュニティとして一緒に動けるような土壌を作っていると思います。

東日本大震災や新型コロナウイルス感染拡大など、想像を超える何かが起きた時に、日本文学をずっと読み漁り、論文にまとめ、学生たちに教えてきて良かったと思います。

200年〜250年前に起きたことを書きつけたこの記録を、現在の自分が見ていることに、捨てがたい思いを感じています。

実感として、私が古典文学を研究するのは、ちょうど隅田川の杭の上に留まるゴイサギのようだと感じています。

江戸時代の絵を見ると、隅田川の百本杭という名所の杭の上にゴイサギやアオサギが描かれています。ゴイサギは、ずーっと水面を見ながら餌が浮かび上がってくるのをじっと待ち、魚が浮かび上がってきた瞬間に、がばつとつかみまします。

私の場合は、ずっと書物を読み漁り鑑賞し、知識や経験を少しずつ時間をかけて堆積してきました。江戸時代の生活、喜怒哀楽、出来事、記録資料、文学を学び続け、堆積してきた知識や経験を活かして、濁ってしまった歴史の大河からシューッと浮かび上がってきた魚影

を見つけ、つかんでいると喻えることができます。

ポケットや真空地帯を上手に作る

30歳になる前に、私が何かを発表する直前でまったく余裕がない時に恩師に言われた言葉を思い出します。先生に助言を求めて研究室を訪ね話をしていると、先生の仕事について来るように言われました。私は、その言葉に間髪入れずに、「先生、僕ちょっと忙しいから、それ難しいですね」と伝えたら、すごく怒られました。「君、50歳になるまでは、忙しいと言ふ言葉を使うな」と。私は、あつげにとられて、「50歳になったらどうなるの?」と、聞きそびれてしまいました。

私は今50歳を過ぎて60歳代になりました。先生の言われたことに対して、「そうだなあ」と思うのと同時に、「じゃあ50歳を超えたら忙しいと言っているのか」と、あの世にいらつしやる恩師に、「ちよつと楯突きたいというか、「先生、それってちよつと違うんじゃないの?」と最近思うようになっていきました。

自分から「忙しい」と言うと、扉を1つ閉じてしまうことになるように思います。できるだけ一息入れて深呼吸をして、忙しいと思っているのはなぜなのかと振り返ってほしいと思います。

Robert Campbell

日本文学研究者。ニューヨーク生まれ。カリフォルニア大学バークレー校卒業(B.A.1981年)。ハーバード大学大学院東アジア言語文化科学博士課程修了、文学博士(M.A.1984, Ph.D.1992年)。近世・近代日本文学が専門で、とくに19世紀(江戸後期~明治前半)の漢文学と、漢文学と関連の深い文芸ジャンル、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビでMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組企画・出演など、さまざまなメディアで活躍中。